

キャラクター名
火村 照護 (ヒムラ ショウゴ)

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー モルフェウス		ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	高校生
	オプション		年齢	17	性別	男
覚醒	渴望	衝動	憎悪	初期侵食率	35	%
出自	親戚と疎遠	経験	大事故	邂逅	忘却	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	37
肉体	3	1	3	1		8	行動値	5
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	5
精神	1	0	0			1	戦闘移動	10
社会	2	0	0			2	全力移動	20

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	3		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚	2		意志	2		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	1
運転:			芸術:	1		知識:	1		情報:	1	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
氷炎の剣	白兵	8r+1	6	Lv+6		命中-2/攻撃Lv+6

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
UGNボディーマー		8	-	-	
思い出の品	2				弟の形見のネックレス

所持品	
コネ: UGN幹部	

合計装甲: 8 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
賢者の石	P 尊敬	N 猜疑心		
立科 沙紀	P 尊敬	N 脅威		
東雲 涼悟	P 感服	N 嫉妬		
有辺 智沙都	P 連帯感	N 不安		
秋鹿 出雲	P 連帯感	N 不安		
八月一日 庵悟	P 連帯感	N 隔意		
サタナキア	P 執着	N 脅威		

最大財産P: 4 残り財産P: 6

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
サイコメトリー	1	1	Maj	-	-	-		
効果:	情報判定組合せ。判定+[LV+2]							
先陣の火	2	2	Set					
効果:	ラウンド毎 +Lv*5							
氷炎の剣	3	3	Min	-	-	自動	-	
効果:	白兵武器作成							
地獄の氷炎	1	2	Min				Limit	
効果:	攻撃orガード+ [Lv*3]							
炎の加護	1	2	Min					
効果:	判定ダイス+Lv個							
コンセ:サラマンダー	3	2	Maj	-	-	-	-	
効果:	C値-Lv (下限7)							
	1	2	Maj	武器	-	白兵		
効果:	攻撃力+ [Lv x 2]							
クリスタライズ	2	4	Maj			白兵	100↑	
効果:	装甲値無視/攻撃+ [Lv*3]							
【支部の日常】	1							
効果:	メモリー/侵食率を10%下げる							
熱感知知覚	★							
効果:	いろいろ探すのに便利。							
不燃体	★							
効果:	炎は好きじゃないけど使うモノ							
温度調節	★							
効果:	大体料理にしか使わない							
成分分析	★							
効果:	料理とか科学の授業でもちょっと…							

2年前、普通の中学三年生だった彼は、家族旅行の際に交通事故に巻き込まれる。暴走したトラックが逆車線に突っ込んで来て、正面衝突。爆発して周りの乗用車をも巻き込む大きな事故として報道された。(大事故) 事故の直後は大怪我で朦朧とする意識の中、燃え盛る視界に人影がどこからともなく現れ、声が聞こえたような気がした。

「このまま無駄に死ぬのか? 生きたいならば、生きたいと、強く願え。…そして、お前は……」

何を言っているか聞き取れなくなってきた。気がついたら目の前にいた人影は消えており、本当に目の前に人が居たのか、もうわからない。もしかしたら幻覚だったのかも知れない。(忘却)

だが、…確かに先程の影の言うとおりだ。俺はまだ死にたくない。生きたい。強く願った瞬間、能力が覚醒。リザレクトによって生き返る。その際、燃える炎が全く熱くない、体が焼けないこと(不燃体)に混乱し、惨状から抜け出そうとしていると、UGNエージェントが現れ、そのまま保護される。

治療がある程度すすみ、容態が落ち着くと、一緒に居た父と母、弟…それ以外にも事故に巻き込まれた者は全員亡くなっており、生き残りは自分一人であったこと、そしてオーヴァードに覚醒したことを伝えられる。

一般人である親戚は見舞いには来たが、保護された彼を気味悪がった。大事故で一人だけ生き残り、常人では考えられないような速度で負っていた怪我が治っていたからだ。もともと親戚とはそこまで懇意にしていなかったため、気味悪がられているところに行きたいとは思わずそのままUGNに引き取られる形になった。(親戚と疎遠)